



2011-12 年度 R I のテーマ「心の中を見つめよう 博愛を広げるために」
 R I 会長 カルヤン・パネルジー (Reach Within to Embrace Humanity)
八戸南ロータリークラブ会報
 例会日：毎週木曜日 12：30 例会場：八戸パークホテル

ガバナー 小山内 康晴 会長 三川 博 幹事 榊 清蔵 会報委員長 岡山 明美
 ホームページ：<http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/> Email：hsrclub@hi-net.ne.jp
 RI 第 2830 地区ホームページ：<http://www.rotary-aomori.org>

第 1764 回例会記録 ロータリー財団委員会担当例会
 2011 年 11 月 24 日 (木) 点鐘 12：30

レポート NO.1230

1764 回例会要旨

- ・会長要件 (共時性について)
- ・お祝い
- ・幹事報告
- ・各委員会報告 (出席、親睦)
- ・東日本震災復興委員会報告 野澤委員長
- ・スペシャル席 金田会員
- ・ロータリー財団委員会担当例会

ビジター

分枝 勝則様 (八戸東 RC)

会長要件 三川会長

先週は内向と外向のつながりでしたが、もう一つユングの理論を紹介したい。共時性の考え方です。私達は因果関係で物事を理解します。



例えば低気圧が来る、雨が降る。相撲などは力があり実力がある人が順当に勝つ。商売も分析し、情報を元に結果が出る等、多くは因果関係があると理解しています。しかし理解できない事象も多くあります。我々医療関係者が不思議に思うことは自殺率が減らない事です。不況と自殺率/医療と自殺率と書きましたが、経済的に苦しいからと言うわけでもありませんし医療も他国、メキシコなどから比べ充実しています。これは因果で説明できません。

複雑な因果関係かこじつけか？『風が吹けば桶屋が儲かる』などは無理なこじ付けで結果を出しています。『大風で土ぼこり…(略)…桶屋が儲かる』

因果関係で理解できない事象があります。それを我々は心理分析、迷信、予感、予兆、神や仏の力である、ご縁があってとか、政治家などは天の声などと言い、理解できない事象を理解しようとしている。ユングと言う人は説明できない事を説明しようとして、非因果的連関の原理、共時性を提唱しました。通常起こり得ない意味のある偶然の一致、例えばある友達のことを考えたら連絡が来たなどや、因果関係によらない規律、無意識が意識に作用し心の全体性を動かしている結果などは共時性であると、なかなか考えてもよく分かりません。

出席報告 木村出席委員長

正会員 43 名出席免除会員を除く会員 35 名中
 本日の例会は免除会員 3 名を含む 33 名出席率 87%
 前々回例会：メ-キャップ 4 名で出席率 78%

最後のロータリアンと共時性ですが、我々の心は無意識の世界を持っている。その世界が個人を超えて繋がっているのではと、ロータリアンの無意識が繋がっている。それが意味を持って動いている。と考えた方が理解しやすいし、その方が結果的にうまくいくと思います。我々の社会がどうかするとオカルト的や得体の知れないごまかしのようだと批判される時もありますが、ユングの考えである、力の及ばない所で確実に意味の有る事象が存在する事を時には考えて見ることかと思います。

私がロータリーに入ったのも共時性があります。私の病院は木曜日は休診でした。たまたま大澤さんに誘われ、休みでなければとうてい例会には出られません。断ることが出来なかったのも共時性でしょう。



お祝い

結婚記念日：大澤会員
 幹事報告 榊幹事

* 11 月 29 日ロータリー勉強会、現在 29 名の予定

* 各 RC12 月の例会変更

八戸中央 RC：19 日例会は時間変更

八戸北 RC：20 日例会は時間変更。27 日は任意休会

ニコニコ・ボックス 松田親睦委員長

三川会長：平光会員、今日はロータリー財団委員会例会よろしくお願ひします。

平光会員：本日はロータリー財団委員会担当例会です。皆様一人 100 ドル 7800 円のご寄付をお願い致します。

本人誕生祝：山子会員

結婚記念日：大澤会員、米内会員

東日本震災復興委員会報告 野澤委員長

経過報告をします。基礎の杭打ちも終わり今基礎





コンクリートです。掘っている時にヒノキの柱杭が出てきました。昔のつり橋の跡です。これから型枠大工がはいります。デーリー東北新聞に蕪島復興の開発青写真が出ていました。私も委員（蕪島地区整備方針策定検討委員会）です。道の駅構想

など、ロータリーがやったことが起爆剤となり行政が本腰を入れてくれました。気仙沼などでは打ち上げられた船を残すなどの三陸復興国立公園構想に震災の思い出を残したくないとの意見もあるそうです。幸い八戸は亡くなった方もいますが復興が始まりました。堀東大教授などの意見を聞きながら進んで行くと思います。私達のロータリークラブの気持ちを通して、大きな活動の礎になったと思います。トイレは2月えんぶり前に市に引き渡されます。

本日のスペシャル席 金田会員

この間会長より何でもいいから話しをといわれ、2 - 3年前に大学の同好会誌に載せた『青葉の笛』を読んで責務を全うしたい。

昨年秋の晴れた日に世増ダムを目指して行ってきました。周囲は紅葉で秋の静けさと眺望は絶景、湖面は鏡のようでした。このダムには世増、畑内（はたない）、軽米の水吉（みずよし）地区の合わせて71軒が水没。昔この地区は平家の落人が逃げてきた所で平家の赤い旗が無い事から旗無そして畑内になったと。また烏帽子をかぶって農作業をして見つけた事から畑に烏帽子を埋めた、そこがエボシ畑で春はそこから先に雪が解けてくると言われたそうです。平家と源氏の戦いがありましたが、その昔、平重盛公は船で八ノ部の七浜に着き、西方七里（約二十八キロ）ほど山奥の現南郷区島守に小松山重盛寺を建て、家臣とともに土着したと伝えられる。「八ノ部の七浜」が今のどの辺りかは、よく分からない。重盛寺は現在の瑞雲山高松寺といわれ、今も本堂横には重盛公が植えたと言われる推定樹齢七百年のカヤの木がある。島守や世増、畑内など新井田川流域には、重盛公やその家臣にまつわる伝説が数多い。その代表的なものが「青葉の笛」だろう。重盛公が持参したとされる横笛で、長さは約四十三センチ。心棒に笹の葉を幾重にも巻き、漆で塗り固めて作つたらしい。黒光りしていて、龍興山神社の宮司さんは、この青葉の笛を吹いたことがあるそうで、七つ並ぶ穴の間隔が不均一で、一定した音が出ないという。表面もでこぼこしていて、今のものに比べ作りが雑であると言っています。笹の葉を何十にも巻いて作つた笛で鳥羽天皇が重盛公に与えたと言いますが、記録が無いそうです。

青葉の笛は小学校の時に国史に載っていました。『源平合戦、青葉の笛』です。戦前の人には知っていると思います。一の谷合戦に敗れ、海に逃れるしかな



かった平家軍。平敦盛は青葉の笛を取りに戻り船に乗り遅れ、馬を泳がし追いつこうとした時、一騎で源氏の先頭を切って来た猛将熊谷直実と一騎打ちになり共に落馬する。熊谷直実は相手をよく見れば自分の子と同じくらいの年の少年だったと気がつき、殺すには忍びないと。直実は名を尋ねて逃がそうとする。しかし少年は名も告げず、問答中にも他の追っ手が近づき他のものに討たれるよりはと、後々供養すると言い、止む無く少年を討った。直実は後に、その少年が平忠盛の孫平敦盛で笛の名手であったと知る。その後直実は出家し、法然の弟子となり神戸の須磨寺で敦盛の菩提を長く弔っていたと史実が残っています。須磨寺には敦盛の像と首塚、青葉の笛があります。2月17日は一ノ谷の法要供養が行われるそうです。私達が国史一ノ谷で習った「青葉の笛」の歌詞を紹介します。歌は忘れまして。『一の谷の軍（いくさ）破れ 討たれし平家の公達（きんだち）あわれ 暁（あかつき）寒き 須磨の嵐に聞こえはこれか 青葉の笛』です。

島守の旧家の伝説には平重盛が持ってきたとありますが、重盛は清盛の息子で先になくなっていきますので、源平の時はいません。そうなると誰が持ってきたのか？家来の創作ではないかなど、伝説のロマンを秘めまして青葉湖深く眠っています。また、このような話は他にもあり源義平が美濃の泉村に残したと言う青葉の笛もあります。史実と伝説をはっきりさせるのは難しいです。記録がありませんが伝説のロマンは見え隠れします。

ロータリー財団委員会担当例会

平光委員長

本日は担当例会です。委員長になって早5ヶ月ですが、まだ勉強の時期です。財団の動きも時々に変化しなければなりませんし、震災復興基金や財団設立100周年を迎えるに当たり、財団は時代のニーズに答える為に夢計画が立案されました。インターネットでロータリー財団と検索すると載っています。是非ご覧下さい。

また事務所に案内がきているもので復興基金の寄付締切が来年6月30日まで延期されました。PHFとなる認証対象は12月末までです。年次寄付、クラブの寄付、恒久基金など税金の控除対象の領収書発行上期分は1月末に、下半期分は7月末までに発送されます。法人の寄付は随時発送するそうです。領収書は再発行不可で大事に保管してください。

黒田副委員長からの伝言ですが、八戸南RCは蕪島の件やよろず相談でこの地区のDDFを使っておりますので寄付に関しても強制は出来ませんがご協力をお願いします。現在1ドル78円一人100ドル7800円重ねて協力をお願いします。

